



チンパンジーのヨウが…

一部地元の新聞でも報道されましたが、チンパンジーのヨウが妊娠していました。そして平成21年6月末の交尾確認後、約230日前後といわれている妊娠期間から出産日を2月中旬と予想し、室内にワラを敷き出産に備えていました。

ヨウはテレビでおなじみパン君のお母さんです。しかし、これまでにパン君を含め3頭の子を産んでいるのですがいずれも人工哺育だったそうです。そうです、というのは彼女は平成20年7月にかみね動物園に来たのですが、その前は宮崎フェニックス動物園にいました。そこで今回は、順調に授乳や子育てができるよう飼育員がマンツーマンで育児訓練を行い出産に備えていました。かみねで生まれれば18年ぶりの繁殖です。否が応でも期待は高まります。



妊娠中のヨウ

そして今日(平成22年2月9日)7時30分。ついに出産したのですが…。

産まれた子に生命は宿っていませんでした。飼育員の出勤前でしたが、その瞬間をビデオカメラは捉えていました。ワラの上に産みおとされた赤ちゃんですがピクリとも動きません。しばらくして母親のヨウも室内をうろうろと動き回り始めました。しかし、赤ちゃんに触れようとはせず、産まれたばかりの子はただただそこに横たわったままでした。既に起こってしまった出来事で、何もできないと理解はしても、ビデオを見続けるのはつらいものがあります。

やがて出勤した飼育員に発見され、私も駆けつけることとなるのですが、獣医室に運ばれ、胎盤のようなものと一緒になった息のない胎児の姿に驚きとショックで言葉も出ませんでした。私も始めてチンパンジーの赤ちゃんを見ましたが人間の赤ちゃんとは体毛が多いこと以外なんら変わりません。ここまで育ち、名前もつけてあげたかったのに、との思いで胸がつまりました。胎盤剥離で胎児が酸欠状態となり死産にいたるケースがありますが、この場合はっきりしたことはわかりません。しかし、チンパンジーの森ができて以来、初の繁殖ということで職員一同期待を持って待ち望んでいたのは確かです。何よりも担当の飼育員のショック、無念さは計り知れません。間接飼育のため普段は入らない寝室に同僚職員の立会いのもと1対1で育児練習をずっとしてきました。何とか自然哺育で育て母子一緒に生活してもらいたい、それがチンパンジーにとっても自然であり来園者にも喜んでもらえる、その思いでずっと取り組んできました。そして、ヨウも始めの頃は赤ちゃんに見立てたぬいぐるみをポ

イしたり見向きもしなかったのが、やがて赤ちゃんを抱いたり頭をなでたりという行動に答えるようになってきました。私も何回か立ち会いましたが、本当にいい信頼関係を築いているなあと感じていたところです。



育児訓練中



信頼関係が

本当はいいお知らせにしたかったこのコラムですがとても残念な結果となってしまいました。しかし、これも自然界の営みのひとつなのでしょう。「ひとつの命が生まれる」ということは本当に大変なことだと思つづく思いました。昨年は多くの動物たちに命が宿りたくさんのお客様に喜んでいただきましたが、生命とは残酷でこういうケースもあるということを知りました。動物園としても人間の分娩とまではいかないまでも、出産にいたるとき、もっと手厚くこちらで準備できないかということを知りました。今回の教訓にして次に活かしていきたいと思つています。

最後に、生まれた子はオスで、体長26.5センチメートル、体重1600グラムでした。これはほぼ、通常通りのサイズです。また母親のヨウは産後の体調も安定しており、2,3日はゆっくり寝室で静養してもらいその後皆さんにお目にかかれると思つています。

(平成22年2月10日 園長 生江信孝)

2010年2月10日

過去の一覧

[令和6年](#)

[令和5年](#)

[令和4年](#)

[令和3年](#)